

【古典文法 助動詞「なり」識別①】

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。(土佐日記)
- ② 守の叫びてもの言ふ声、はるかに遠く聞こゆれば、「その、ものは、のたまふなるは。」(今昔物語集)
- ③ そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。(徒然草)
- ④ おのれは、とうとう、女なれば、いづちへもゆけ。我は打死せんと思ふなり。(平家物語)
- ⑤ 八木のやすのりといふ人あり。この人、国に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。(土佐日記)
- ⑥ 上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。(源氏物語)
- ⑦ 人々数多声して来なり。国守の御子の太郎くんのおはするなりけり。(宇治拾遺物語)
- ⑧ しだのなにがしとかやしる所なれば、秋のころ、聖海上人、そのほかも、人あまた誘ひて、(徒然草)
- ⑨ 呼びわづらひて、笛をいとをかしく吹き澄まして、過ぎぬなり。(更級日記)
- ⑩ 奥山に猫またといふ物ありて、人を食らふなると人の言ひける。(徒然草)
- ⑪ 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆虚言なり。(徒然草)
- ⑫ いとよきことにこそあなれ。その宮は、いとあてに、けけしうおはしますなるは。(和泉式部日記)
- ⑬ いと思はずにほけづき、かたほにて、一ひと文もん字じをだに引かぬさまなりければ、(無名草子)
- ⑭ と言ひければ、傍らにて聞く人は、謀るなりと、をこに思ひて笑ひけるを、(宇治拾遺物語)
- ⑮ 国より始めて、海賊報いせむと言ふなることを思ふ上に、海のまた恐ろしければ、(土佐日記)

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮

【古典文法 助動詞「なり」識別①】

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。(土佐日記)
- ② 守の叫びてもの言ふ声、はるかに遠く聞こゆれば、「その、ものは、のたまふなるは。(今昔物語集)
- ③ そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。(徒然草)
- ④ おのれは、とうとう、女なれば、いづちへもゆけ。我は打死せんと思ふなり。(平家物語)
- ⑤ 八木のやすのりといふ人あり。この人、国に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。(土佐日記)
- ⑥ 上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。(源氏物語)
- ⑦ 人々数多声して来なり。国守の御子の太郎くんのおはするなりけり。(宇治拾遺物語)
- ⑧ しだのなにがしとかやしる所なれば、秋のころ、聖海上人、そのほかも、人あまた誘ひて、(徒然草)
- ⑨ 呼びわづらひて、笛をいとをかしく吹き澄まして、過ぎぬなり。(更級日記)
- ⑩ 奥山に猫またといふ物ありて、人を食らふなると人の言ひける。(徒然草)
- ⑪ 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆虚言なり。(徒然草)
- ⑫ いとよきことにこそあなれ。その宮は、いとあてに、けけしうおはしますなるは。(和泉式部日記)
- ⑬ いと思はずにほけづき、かたほにて、一ひと文もん字じをだに引かぬさまなりければ、(無名草子)
- ⑭ と言ひければ、傍らにて聞く人は、謀るなりと、をこに思ひて笑ひけるを、(宇治拾遺物語)
- ⑮ 国より始めて、海賊報いせむと言ふなることを思ふ上に、海のまた恐ろしければ、(土佐日記)

① 伝聞	② 推定	③ 断定	④ 断定	⑤ 伝聞
⑥ 断定	⑦ 推定	⑧ 断定	⑨ 推定	⑩ 伝聞
⑪ 断定	⑫ 推定	⑬ 断定	⑭ 推定	⑮ 伝聞